



WE, JOKERS

英語のジョークを楽しむ会会報

No.19 April 10, 2010

- ジョークの心得三か条:
1. ジョークは心のゆとりであり、人生の潤滑油です。
 2. ジョークで言語の壁に挑むのは知的快感です。
 3. ジョークは簡潔が至上です。

ジョークと私

故人の復活

宮本 倫好



キリストでなくても故人は復活します。新聞記者をしていた頃、有名な登山家に触れた文章で、名前の前にうっかり「故」を付けてしまいました。長年消息がなく、どこかで訃報を見た気がしたからです。ところがどっこい、この人はちゃんと生きていて家族から「まだ呼吸をしていますよ」という抗議がきました。

早速編集局長に頭を下げましたが、「時々あることだ。菓子折でも持って謝りに行き、新聞で死亡扱いされると、かえって長生きするものですよ、と言え」と教えられました。さすが新聞社の古狸。果たして家族は「本人も生き過ぎたかな、と笑っていますから」と、簡単な訂正記事だけで許してくれました。

ボストンの新聞の死亡欄担当記者は訂正嫌いで有名でした。ある時本人からの抗議電話に対し、冷静に答えました。“Really? And where're you calling from?” まるで「あの世からの電話ではないのか」というニュアンスですね。

Mark Twain の病氣中に死亡記事が誤って出ました。彼の抗議の連絡に編集長は “How about placing your name in the birth column tomorrow and giving you a fresh start?” と「再生」を

提案しました。jokester でもある Twain も意表を衝かれ、苦笑いして誤報を許したそうです。

誤った死亡記事は premature obituary と言います。人間、いずれ必ず死ぬのですから、premature と呼ぶところは面白いですね。調べてみると、世界は広い。この種の誤報は結構あります。

先の法王 John Paul II は、メディアで3回殺されました。CNN テレビは最近のある1年で、世界の有名人を7人死亡させたそうです。メディアは有名人に対し、常に最新の死亡記事を準備していますが、それがそっくり誤って流れたりします。Elizabeth 女王の母が病床にあった時、王室の葬儀リハーサルを Sky News が本物と早とちりし、「Queen Mother 死す」と報じました。

これでは有名人はおちおち出来ません。The New York Times のオーナーだった Arthur Sulzberger は、毎朝特別配達される新聞の死亡欄に先ず目を通し「ああ、今日も俺は死んでいない」と確信してから、元気に仕事に励んだといっています。

今月の名文句

Why should I go [to Marilyn Monroe's funeral]? She won't be there.

Arthur Miller

第 19 回研究発表会

TV or not TV—名句のもじり

豊田 一男

英語のジョーク、引用句事典などを読んでいると、いわゆる名句・名言のもじり(parody)が登場する。例会では 10 の名句とそのもじりに言及したが、ここでは紙面の都合上その中の 4 つを取り上げることにする。

[1] To be or not to be, that is the question.



この有名なハムレットの独白の冒頭部分は極めて有名で、今までさまざまに訳されてきているが、これがどのようにパロディー化されるか見てみよう。

(1) TV or not TV, that is the question.

To be と TV のしゃれになっている。日本人は B と V の区別が苦手であるが、しゃれとして成り立つということは、逆に、あまり発音など気にしなくてもよいということになりそうである。

(2) One day William Shakespeare was finding it difficult to concentrate on his writing work. Inspiration seemed to have deserted him. Then, as he sat gnawing his pencil, he glanced at it and suddenly creative thought rushed into his head and he began to write: '2B or not 2B...'

鉛筆の B は“black”の略で黒色濃度を表すから、彼は 2 B の鉛筆で書こうかどうしようかと悩んでいたことになる。(会員の服部氏によれば、この時すでに鉛筆は発明されていたそうである。)

[2] I think, therefore I am.

(1) I think, therefore IBM.

デカルトの名言の I am の a を B に変えただけで自社の広告にした名作と言えよう。

(2) I think, therefore I'm single. (Lizz Winstead)



よく考えると、結婚など馬鹿らしくてできないから、独身でいるのよ、ということ。作者はアメリカの女性コメディアンだそうである。

(3) I shop, therefore I am.

紀元 1 世紀のローマの詩人オウィディウス(Ovid)は“A woman is always buying something.”という言葉を残している。女性から買い物を奪ってはいけないことが分る。



[3] Patriotism is the last refuge of a scoundrel.

(Samuel Johnson)

(1) Patriotism is the first refuge of a scoundrel.

(Ambrose Bierce)

元の「愛国心は悪党の最後の逃げ場である」は日本の近代史・現代史を少しかじれば分かるが、ビアスは“last”を“first”にして悪党どもをさらに痛罵している。

(2) Consistency is the last refuge of the unimaginative. (Oscar Wilde)

一貫性とは他人の立場でものを考えることなどできない融通性のないことも意味する。

[4] You can fool all the people some of the time, and some of the people all the time, but you cannot fool all the people all the time.

(Abraham Lincoln)

(1) Energy crisis: When it becomes too hard to fuel all of the people all of the time.

Fool と fuel のしゃれでエネルギー危機を言い得て妙である。

(2) A dictator must fool all the people and there's only one way to do that: he must also fool himself. (W. Somerset Maugham)

ヒトラーを思い出すのは筆者だけではあるまい。

しょせん
所詮もじりはもじりに過ぎず、原作を超えることはできないが、もじりの対象になるということは、それが名句・名言であることを示していると言える。

第 19 回研究発表会

ジョーク・コンテスト観戦記

瀬能 和彦

3月20日、第4回ジョーク・コンテストが例の如く都内某所で秘密裏に行われました。元々私は所用で不参加の予定だったのですが、幸いにも急遽予定がキャンセルとなり、目出度くジョーク・コンテストに潜入することができました。

相原氏の軽妙な司会進行により、参加者からの間をおかずの突っ込み(?)がありながらも、コンテストはスムーズに執り行われました。

今回の出品数は23。いくつかの意図的・非意図的な例外はありながらも、今回は15 wordsまでと云う厳しい制限の中、どれも皆を爆笑、苦笑の渦に巻き込む優秀な作品ばかりでした。

コンテストが始まり、スライドに投影されたジョークを鑑賞し、それについてコメント。皆、一癖も二癖もある方々、いやもとい、酸いも甘いも噛み分けたベテラン揃いの方々ですから、そのジョークの表面的、表層的な解釈は基本的に受け入れられません。「こう読むのが正解じゃないか」、「いやむしろこう解釈した方が」と深読みの嵐です。

特に司会の相原氏の得意分野に則った大胆な解釈に掛かれば、普通のジョークもお色気ジョークに大変身。私なんぞ根が素直な(?)ものですから“普通”にしか読めませんでした。みなさんの解釈を伺わせて頂きながら、まだまだ修行が足りんと再認識した次第です。

更に、前回参加させて頂いたときにも感じたことですが、投影されたスライド毎に、正にそのジョークの意に適った写真やイラストが付いており、非常に感心させられました。自分のジョークに合うイラストと一緒に送られた出品者もいらっしまったようですが、ほとんどはインターネット等から適切なイラストを探し出してスライドに貼り付

けたものと思います。本当にスライド作成者のご苦勞が偲べれます。毎度ありがとうございます。

さて、全ての作品を鑑賞した後、参加者全員で挙手による投票を行い、今回の優秀作品を決定致しました。(挙手は一人三回まで。自選は不可。)

その結果、得票数の多いものから以下のようになりました。

・最優秀作品 (8票獲得)

Organic Farming

Organic farming is a lot of shit.

-- Isaac Asimov

(7 words)

出品者不明

・準優秀作品 (7票獲得)

Marriage isn't a word. — It's a sentence.

(7 words)

植田さん出品

・準準優秀作品 (7票獲得)

The road to success is always under construction.

(8 words)

宮本先生出品

順位の発表後、最優秀作品が出品者不明というオチまで付いておりました。内容が内容だけに出品者も匿名で出品せざるを得なかったのかも知れませんが、何でも賞品があるそうですから、恥ずかしくても直ちに名乗り出なさい、とのことでした。

ご覧のように準優秀作品との票差は僅かに1票。優秀な作品揃いでそれも宜なるかなです。準優秀作品と準準優秀作品は票数が同じでしたが、同数の場合は語数のより少ないものを上位とするという規定に基づき順位が決定致しました。

因みに今回最も語数の少なかった作品は安藤氏の出品された

Forecast for tonight: dark.と Intel inside.

Idiot outside. の2作品で、両方ともたったの4語です。安藤氏、狙ってきたに違いありません。

今後のコンテストでは、4語を下回る優秀な作品に期待が掛かります。

最後になりますが、今回も大いに笑わせて頂きました。出品者のみなさん、運営のみなさんに大感謝です。次回は私も作品を出品し、LOM(Laugh Only Member)を脱したいと思います。

どうぞよろしく =新入会員ご紹介=

長谷川幹夫さん(横浜市港南区)

① 私にとってジョークとは：老後の楽しみにカルチャーセンターに通い、英語で Shakespeare を読んでいます。脚本を読む本当の楽しさは、bawdy quibble (卑猥な冗談) を独りほくそえむことだと考えています。それが私にとっての目下のジョークと言えましようか。

② [ナニ] = “Nothing” (Hamlet III.2.120-129)

Ham: Lady, shall I lie in your lap?

(おひざに寝てもいいかな?)

Oph: No, my lord. (いけません、殿下。)

[何かいやらしいことを言ったと、思った?]

Ham: Do you think I meant country matters?

[count-ry = cunt]

Oph: I think **nothing**, my lord.

(いえ、ナンでもありません、殿下。)

Ham: That's a fair thought—to lie between maids' legs.

(それはまた、乙女の股に相応しい考えだ。)

Oph: What is, my lord? (何がですか、殿下。)

Ham: **Nothing**. (ナニがありませんって言ったろ。)

北川浩一さん(茨城県取手市)

① それら、これらと、数々あっても、大半は理解出来ない代物です。そこで「会」の皆様のご助力を仰ぎ、楽しみの幅を広げるべく幾多の代物に挑戦したいと思っている次第です。

② 今のところ、気に入りのジョークを語るレベルに達してません。従って、小生でも笑えるレベルとはどの程度かのサンプルを紹介します。

A husband and wife are getting ready for bed. The wife is standing in front of a full length mirror taking a hard look at herself.

“You know, love,” she says, “I look in the mirror and I see an old woman. My face is all wrinkled, my boobs are barely above my waist, my butt is hanging out a mile. I've got fat legs and my arms are all flabby.”

She turns to her husband and says, “Would you please tell me something positive to make me feel better about myself?”

He thinks about it for a bit and then says in a soft voice, “Well...there's nothing wrong with your eyesight.”

第20回研究発表会のご案内

会員各位のご参加をお待ちします。まだ会員になっておられない方もどうぞ。

- 日時：5月15日(土) 午後2時-4時
- 会場：平河町 Mercury Room
(クオリティ(株) 6階会議室)
(東京都千代田区平河町1-4-5 平和第一ビル)
- 交通：地下鉄・有楽町線麴町駅1番出口より徒歩2分。地図⇒<http://www.quality.co.jp/>
- プログラム
 - ① 「Headline Jokes～ジャーナリズムのみだしなみ～」
発表＝草野 淳 会員
 - ② 第5回ジョーク・コンテスト
司会＝新堂陸子 会員
- 参加費：会員・非会員とも500円。
- 問合せ先：renraku@eigojoker.com

第5回ジョーク・コンテスト出題作品募集

- 要領：
 1. 出題は、お一人二題までとします。
 2. 今回も、短いもの(15 WORDS以内)に限定します。(評決が同点となった場合には、短いものを上位とします。)
 3. 必要と思われる場合には、「笑いのツボ」を付記してください。
 4. 当日出席できない方も、応募できます。
 5. 結果は、We, Jokers No.20 Joke Contest Supplement 紙上でも発表されます。
- 宛先：mmsagawa403@s6.dion.ne.jp
- 締め切り：4月30日(金)

WE, JOKERS 英語のジョークを楽しむ会会報 第19号

発行日：2010年4月10日

発行人：世話人代表 宮本倫好

編集人：佐川光徳

発行所：英語のジョークを楽しむ会

〒102-0093 東京都千代田区平河町1-4-5 平和第一ビル
クオリティ株式会社 気付

TEL:03-5275-6121, FAX:03-5275-6130

問合せ先：renraku@eigojoker.com

